

## 平成 29 年度 第 2 回長野県教科用図書選定審議会 議事要旨

1 日 時：平成 29 年 6 月 6 日(火) 午前 10 時～12 時

2 会 場：長野県庁議会棟 405 号室会議室

### 3 出席者

○委員：石塚委員、木下委員、下島委員、長谷部委員、松井委員、宮島委員、岩本委員、二茅委員、野田委員、藤森委員、犬飼委員、柄澤委員、田仲委員、水口委員、宮下委員

○事務局：菅沼教育次長、北澤教学指導課長、湯沢企画幹、佐倉義務教育指導係長、勝又特別支援教育課指導係長ほか

### 4 内 容

(1) 第 2 回審議会審議内容の確認

(2) 議事

①小学校用教科書（「特別の教科 道徳」）の選定に必要な資料について

【水口委員】「多面的・多角的に考える」ということについて教えてほしい。

【調査員】多面的・多角的については、道徳の場合、一つのつながりで考える。視点を変えて考えたり、状況を変えたり、友達の立場から考えたりすることをいう。

【木下委員】「あえて」という言葉が使われている箇所がある（4 ページの「4 全体的な特色」1 行目、6 ページの「1 教科の目標からの配慮」1 行目及び「4 全体的な特色」1 行目）。  
「あえて」という表現は、出版社が言っていることなのか。

【調査員】他の教科書との違いを鮮明にしたいという意図があり、「あえて」という表現を使ったが、「あえて」という表現は、調査員の主観が強く出てように感じる。

⇒学校図書、学研教育みらいに記述されている「あえて」を削除する。

【水口委員】「問題解決的な学習」という文言があるが、どのような学習のことをさしているのか。

【調査員】考え議論する道徳、主体的・対話的で深い学びの授業を実現するための一つが問題解決的な学習である。子どもたちが実際に社会に出た時に課題を自分で解決できる資質・能力を養うということで、自分たちで問題意識をもったところで、自分たちで問題を解決する学習をいう。

【下島委員】「」の使い方、引用されているのなら「」を使うのはよいが、そうでないところで「」を使うと強調されてしまう。句読点で句切るのはどうか。

⇒引用でない部分の「」はとる。

- ・ 6 ページの「1 教科の目標からの配慮」の 1 行目「主題を明示しない」「学習の道筋を明示する」の部分は、「」をとって、点でつなぐ。6 ページの「4 全体的な特色」の「主題を明示しない」「児童が思った・・・」「学習の道筋・・・」の部分も同様。
- ・ 6 ページの「1 教科の目標からの配慮」の 6 行目「やってみよう」「広げてみよう」、同 6 ページの「2 児童の学習活動への配慮」の(3)「つなげよう」「深めよう」等は引用なのでそのまま。なお、「広げてみよう」を「広げよう」へ修正。

② 特別支援学校小学部及び中学部並びに特別支援学級において教科用図書として使用する一般図書の選定に必要な資料について

【松井委員】対象年齢、本の大きさやページ数、紙質、製本については、出版社側からのものか。

【調査員】対象は図書によって示されているものといないものがある。示されているものは生活年齢が記載されている。示されていないものは、調査員の方で、各教科の目標や内容、扱う子どもたちということで、発達年齢や生活年齢を考慮して書かれている。製本については、丈夫さ破れにくさ、表紙を扱う際に扱いやすいのかなどを検討している。上質紙については、調査員がめくりやすいか、扱いやすいか、文字やイラストが見やすいかなど、総合的に紙質について記載している。

【下島委員】1番の図書の「1内容について」の2行目「ことばのなぞりや書き」のところに、閉じるカッコを入れる。また、4番の図書の「2表現について」の2行目「どの場所でもマークが同じなら」というところが分かりにくい。

⇒1番の図書は「運筆・・なぞりや書き」、4番の図書は「どの場所でも同じマークであれば」とする。

【木下委員】資料の最後のページの対象年齢に関する注意書きは、資料のはじめのページに付けた方がよい。事務局で、ご検討願いたい。

【事務局】前につける方向で。

③ 教育委員会への答申（案）について

【水口委員】ただいま修正した内容の資料を付して、答申することとしてよいでしょうか。

（異議なし）

**\* 議事内容については、全員意義なく承認されました。**

(3) 教科用図書の採択に関する教育委員会への答申